

平成29年度 会派調査研究報告書

(視察先1か所につき1枚)

会派名	協伸クラブ
出席者	輿石賢一・山本雄次・木内吉英
事業名	ドローンを活用した災害対策について
事業区分	①研究研修 ②調査

1. 韮崎市での課題と研修・調査の目的

さまざまな災害に対し、自治体を中心とした対策が急がれており、その対策にドローンの期待が高まっている。
本市において、ドローンを活用した災害対策が有効か、いち早く取り組んでいる焼津市で研修をおこない、研究をする。

2. 実施概要

実施日時	平成30年2月20日(火) 10:00~12:00
視察先	焼津市
担当部局	危機管理部

報告内容

1. 焼津市の概要

人口は平成29年3月31日現在140,861名で、世帯数は56,089戸となっている。
面積は70.31km²で、東京へ約193km、名古屋へ約173kmの地点にあり、その玄関口としてJR東海道本線に焼津と西焼津の2駅、東名高速道路に焼津ICと、大井川焼津藤枝スマートICがある。また、富士山静岡空港からは、市域のほとんどが20km圏内に位置するなど、交通の利便性にも優れている。静岡県内のほぼ中央部に位置し、北は高草山(501m)、東に駿河湾を臨み、西南は一望に広がる大井川流域の志田平野で、西に藤枝市、大井川を挟んで吉田町と島田市に接している。

2. ドローン導入の経緯

- 平成27年7月9日に発生した大雨により、花沢地区で土砂崩落が発生。
- 7月12日、住宅裏の山林で土砂が崩落し3世帯が避難。梯子車で上空より状況確認を試みたが、思うように接近できず、梯子も伸長できなかった。
- 「災害対策本部機能の強化」と「災害情報の見える化」の推進を目的に無人航空機1機を導入。
- 平成27年11月、運用体制の強化を図るため1機を追加配備。
- 平成28年3月、体制強化を支援するため、DJI-JAPAN社より寄贈を受け、3機体制となる。

1. 運営状況

焼津市におけるドローンの活用状況

- 災害現場の状況把握
- 防災訓練や水防演習
- 住民説明用撮影
- 消防活動（要救助者検索、活動状況把握等）
- 工事状況確認
- 広報用写真撮影
- プロモーション動画撮影
- 火災現場調査
- 救助資機材の搬送 など

2. 考察（これらの取り組みを韮崎市にどう活かせるか）

- ドローン導入による「災害情報の見える化」

①行政にとって

視覚的に災害状況を捉えることで、迅速な被害状況の把握や、適切な応急対策の検討が速やかにおこなえる。

②住民にとって

視覚的に情報を住民に提供することで、危機意識が高まり、具体的な備えや避難行動につながる。

- 災害時における活用ばかりではなく、さまざまな活用方法が考えられることから、本市においてもドローンの導入を検討すべきと考える。



感想（まとめ）

・ 市政に活かせること